

首都直下型大地震に備えた、中野区防災戦略

この度の東日本大震災で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。犠牲者のご冥福と、全国民あげて一日も早く復興が進みますように心から祈るばかりです。

我が国日本は今日まで数々の大震災を周期的に乗り越えてきています。我がまち中野の防災を考えてみると、都市部での大規模な地震発生としてその機能を完全に破壊した阪神・淡路大震災の経験を活かし、首都直下型地震を想定した「防災・減災まちづくり」を都市政策と地域づくりの観点から考えていかなくてはなりません。

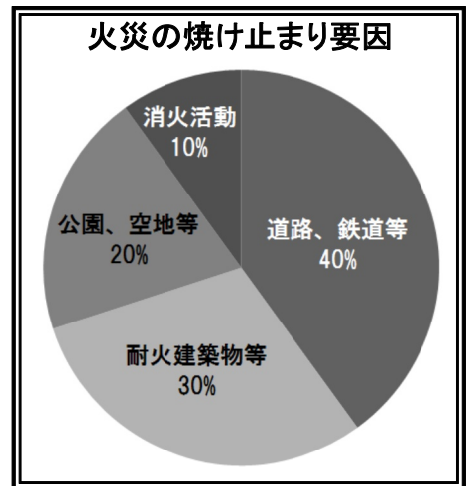
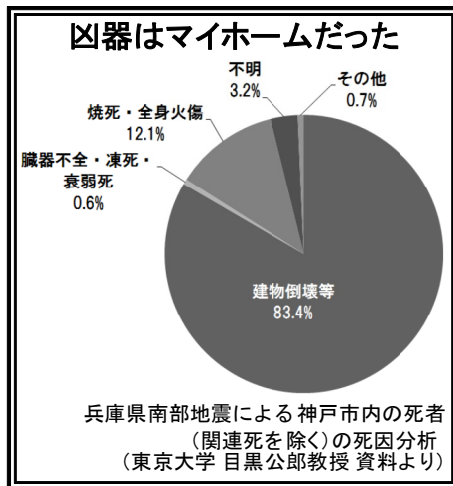
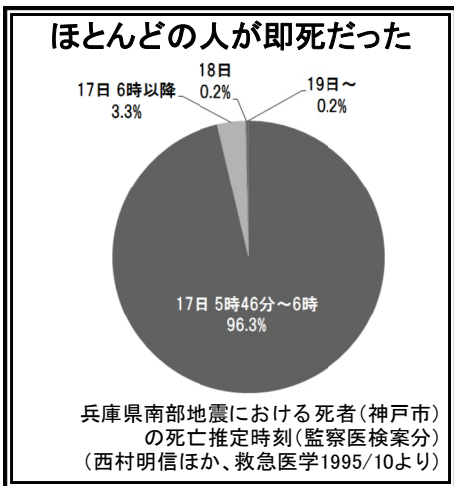
まずは震災直後に、家屋や家具の倒壊から身を守り、火災から逃れ、自分が生き抜く事。その後の72時間で避難所を立ち上げ、同時に、災害弱者（お年寄り、乳幼児、小児家庭、障害者、日本語が不自由な外国人）をサポートする。避難所には帰宅難民・ターミナル難民といわれる非居住者も訪れるかも知れません。そこに集まるすべての被災者が、情報共有し連携をとり、自分たちが運営した避難所で生き延びなければなりません。そこには防災リーダーが不可欠です。想定を超える事態に対処できるような今までの既成概念にとらわれず、防災の考えかたを総点検し是正すべきは即変えていかなくてはなりません。

一番大切な命を守る為には、自分が日頃からどう注意をし何が出来るのか、行政（中野区・東京都として国）に何を求めるのかを考えるべき時期であるし、それは今すぐ実践しなければならないことです。

この未曾有の大災害の復興に全力を挙げることと同時に、近いうちに必ずくるといわれる新たな地震に備えて一人でも犠牲者を減らす為に中野区の現状を把握したうえで、防災・減災についての具体的アクションを考えていかななくてはなりません。

防災士 高橋かずちか 拝

都市型大震災「阪神淡路大震災の教訓を活かせ！」



首都直下地震に備えた、中野減災まちづくり

- 耐震化の促進
- 防災環境軸(延焼遮断帯)づくり
 - 河川防災環境軸⇒江古田川、妙正寺川、旧桃園川、神田川、善福寺川
 - 鉄道沿線防災環境軸⇒西武新宿線と同地下化にともなう線路敷
 - 幹線道路防災環境軸⇒区内幹線道路沿線の耐震と耐火強化
 - 面的防災環境軸⇒公園空地の整備(地域内小規模含む、延焼防止の観点から)
- 公園・空地の整備(避難所の観点から)
- ライフライン・インフラ整備⇒災害・復旧に強いインフラ
- 地区ごとに防災リーダー(網)の構築
- 災害弱者への対応⇒日常の地域連携構築(老若男女)
- 各地域ごとの緊急時情報手段確保と共有手段(例: twitter facebook等)
- 地域防災力と企業防災力と学校との連携
- 膨大な避難者と帰宅困難者(含ターミナル難民)への対応
- 備蓄の見直し(トイレ対策は必須・最重要項目)

【かずちかのつぶやき】

この10年が中野の発展にとって勝負どころだ。中野駅周辺や西武線沿線まちづくりや面整備等々。其処には地域の良き文化を引継ぎ、未来に亘って発展していかなければいけない。安全を基本に確固たるまちづくりビジョンが必要だと思う。私がこだわる災害時の地域連携は、治安・子供たちの育成・お年寄りやハンディーを御持ちの方を見守る力にもなる。安全で安心して暮らせる街、賑わい活力あふれる街、住み続けられる街づくり、これこそがバリアー(垣根)のない「何時でも、誰でも、好きな時に自分で動けるまち」=「ユニバーサルデザイン」につながるのではないかと。折角巨費を投じて整備するのなら、防災+こうした視点も組み入れ、利用されるまちづくりにしたい。

東北地方太平洋沖地震に対する中野区への対応

1. 被災地への支援について

- (1) 福島県田村市への支援
3/14～3/16 の3日間 備蓄物資搬送(トラック)
3/18 田村市を訪問し市長と面談(支援協議)
- (2) 区民からの救援物資の受付
・期間: 3/22～3/27の6日間(於、区役所1階区民ロビー)
・受付件数: 205件・受付数量: 133箱
(内訳)
・赤ちゃん用品: 27箱
(紙おむつ、熱さまシート、おしり拭き等)
・高齢者用品: 59箱
(大人用紙おむつ、介護食用とろみ剤等)
・生活用品: 39箱(使い捨てカイロ等)
・飲料水: 8箱(水、お茶)
- (3) 義援金の募集
区民からの義援金を受付中。(本庁舎及び各地域センター)
(3/25現在の募金総額: 5,859,181円)

2. 被災者への対応

- (1) 避難場所の開設 旧東中野小学校の施設
・開設: 3/18(現在も開設中)
・定員: 150人程度 ・実績: 7人(3/20～3/22日)
- (2) 車両により避難してきた被災者への駐車場の提供

3/23から当面の間

- ・(仮)南中野区民活動センター等整備用地 20台
- ・旧鶯宮東自転車保管場用地(若宮3-56) 15台

3/22-3/31まで

- ・中野区自動車駐車場(中野4-9先) 25台
 - (3) 被災者受入れに関する区の相談窓口
・本庁舎1階に総合相談窓口を設置
- ※4/1以降、中野区内の都営住宅へ55世帯が入居予定。

3. 乳児に対する水道水摂取制限に関する区の対応

- 東京都から配送された飲料水を次のとおり配付。
・配付日: 3/24-25 550mlのペットボトルを
1人あたり3本

4. 区施設等の節電対応状況

- (1) 利用時間の短縮
①中央及び地域図書館: 利用時間を午後5時までに短縮
②利用時間を短縮する施設の追加
U1Sプラザ、ふれあいの家 午後6時まで
中部すこやか福祉センター 午後5時まで
- (2) 街路灯の部分消灯(約2,500基/7,549基のうち)
除く、主要交差点、病院、消防署前、ガード下等
(区道全体の街路灯本数は12,119基)

5. 新学期からの学校運営

- ①新学期から給食を実施する。
②4月の新学期より学校開放を再開する。
なお、体育館開放は節電のため引き続き休止とする。
以上 2011.03.30現在 区資料より

東京電力 計画停電について (2011.4.4現在)

東京電力の公表している現在の計画では、4月11日(月曜日)まで中野区は計画停電の地域に入っておりませんので、停電にはなりません。

※東京電力は、3月26日(土曜日)の実施分より、現在のグループの中に、更に5つに細分化して計画停電の運用を開始するとのことですが、中野区は、引き続き計画停電の対象外で、停電にはなりません。当分は計画停電の対象にならない見込みです。

計画停電が実施された場合の中野区への対応 (2011.3.16現在)

- ◎窓口サービス、図書館: 停電時間の1時間前から窓口サービスを休止し、停電時間終了30分後から再開。
- ◎地域センター等の集会室、文化施設、スポーツ施設: 停電時間中の施設利用は中止。
- ◎保育園: 通常通り保育を行う。(停電の時間帯によって給食が提供できない場合、午後5時以降の保育ができない場合は、保護者にお知らせ。)
- ◎学童クラブ: 通常通り保育を行う。(午後5時以降の保育ができない場合は、保護者にお知らせ。)
- ◎児童館・キッズプラザ: 業務を中止する場合があります。
- ◎福祉施設
高齢者福祉センター、高齢者会館: 通常通り業務を行う。(停電の時間帯によっては、一部サービスの利用が制限される場合有。)
- ◎区立障害者施設: 通常通り事業を行います。(停電の時間帯によっては、業務を休止する場合があります。休止する場合は、通所者にお知らせします。)
- ◎スマイル歯科診療所: 停電時間中の業務は休止します。

※「首都直下地震に対する中野区の減災対策について」という私の論文に、「地震のメカニズムと基礎知識」「防災施策と都市政策」「中野減災施策」等をまとめてあります。ブログ「かずちかレポート」をご参照ください。

是非、ご意見をこちらまでお寄せ下さい。お待ちしております

■Twitter http://twitter.com/kazuchika_jp

■E-mail dakai@kazuchika.jp

■Bbg <http://www.kazuchika.jp/>

高橋かずちか事務所

東京都中野区江原町2-29-13

ジェミニA館206号/〒165-0023

Tel.03-5982-6801 Fax.03-5982-6802